



● 特集 ●

# 「百年つづく森の国・木の街へ」 ～「木の街」最前線～

10月は「木材利用促進月間」です。

本年6月に閣議決定された新たな森林・林業基本計画では、副題として「百年つづく森の国・木の街へ」を掲げ、林野庁は、森林資源の循環利用を推進する中で、木材利用の一層の拡大を目指しています。近年、都市部のオフィスや商業施設、宿泊施設などにおいて木造・木質化の取組が進み、木のぬくもりや心地よさを感じられる空間が増えてきています。木材の利用は、快適なまちづくりにつながるだけでなく、森林の適切な整備や脱炭素社会の実現にも貢献します。

本特集では、「木の街」を成す木材を多用した商業施設の作り手や、「木の街」に出会う機会の作り手へのインタビューを通じ、人と森林をつなぐ「木の街」の意義や魅力をご紹介します。

上：あつたnagAya（写真提供：Tololo studio） 中：無印良品 イオンモール福原 OpenMUJI（写真提供：株式会社良品計画）

下：NISHIGAWATERRACE（写真提供：有限会社ティーハウス（施主） / 株式会社竹下和宏建築設計事務所、株式会社木下洋介構造計画（設計） / 株式会社ミナモト建築工房（施工））



# NISHIGAWA TERRACE

(岡山県岡山市)

株式会社 竹下和宏建築設計事務所  
代表取締役 竹下和宏

設計者

## 1 施設の概要やコンセプトは？

「NISHIGAWA TERRACE」は、岡山市中心部、西川緑道公園に面する敷地に計画された循環をコンセプトとする木造複合施設です。都市に開かれた半屋外の中庭を中心に飲食テナントやテラスを配置し、豊かな周辺環境と連続する建築となることを意図しました。主体構造は積層したひのきによる一方向ラーメン構造とし、シンプルで内部の更新も容易な形式としながら、木フレームが印象的に緑道の風景を切り取ることを狙っています。中庭は貯留した雨水が水路を巡り、これを灌漑用水として植栽や菜園の作物が育てられる、いのちの循環を感じられる場となっています。

## 2 本施設において木材を採用した理由や、設計・施工にあたり工夫された点は？

岡山市の都心の森として豊かな生態系を涵養する西川緑道公園との親和性に配慮し、構造には木造を選択しました。西川用水が取水する一級河川・旭川の水源地である真庭で生産されたひのきを多用することで、森林と都市との経済連関や資源循環が風景として実感できる景観を実現しています。構造部材は可能な限りあらわしとし、木の質感が内外にわたって空間の安らぎに寄与しています。また構法は在来軸組構造を基本とし、住宅建築を担ってきた地域の工務店が施工やメンテナンスの対応ができる形式とすることで、地方都市における中小規模の都市木造のあり方として一つの解

となることを目指しました。

## 3 利用者や地域からの反響は？木材利用によって生まれた効果は？

誰でも立ち入ることが可能な中庭やテラスなどパブリックスペースを工夫しており、市街地において地域産木材の素材感を気軽に感じられる場所として、利用者からは好意的に評価されています。また本施設の建設を契機として、事業主・設計者・施工者を中心に木質化に意欲のある地域の企業が集まり、「まちなか木質推進会議」が発足。中心部における木造建築プロトタイプの開発や、地域経済への波及効果・炭素貯蔵量の数値化等、都市開発の手法の提案を通して近隣に働きかけ、市の中心部において木材利用への共感が連鎖する状況の構築を目指して活動しています。

## 4 100年つづく木の街づくりに、本施設はどのように貢献を？

西川緑道公園筋の本施設周辺は街の中心部でありながら中低層の建築物が多く、防火規制も準防火地域指定となっており、規模を抑えた開発であれば比較の木造化しやすいエリアです。都市の基調であり誰でも利用が可能な商業テナントビルが地域材を利用した木造建築に置き換わっていくことが出来れば、森林と都市の持続的な経済循環に貢献でき、また木の空間のもつ居心地の良さを実感できる環境を拡げてゆけるのではないのでしょうか。



写真提供：有限会社ティーハウス（施主）/ 株式会社竹下和宏建築設計事務所、株式会社木下洋介構造計画（設計）/ 株式会社ミナモト建築工房（施工）



# あつた nagAya (愛知県 名古屋市)

ナノメートルアーキテクチャー  
代表取締役 野中あつみ  
取締役 三谷裕樹

設計者

## 1 施設の概要や開発コンセプトは？

「あつた nagAya」は、名鉄神宮前駅西側の大型商業施設を減築し、その余白に木造平屋3棟を配置した駅前再開発です。「地域で継がれる魅力を嗜み、再発見できる場所」を目指し、観光客だけを対象とした施設ではなく、通勤・通学者や地域住民も日常的に立ち寄れる場所を目指しました。熱田神宮への玄関口であると同時に、隣接する商店街や周辺のまちへ人の流れをつなぐことを重視しています。敷地内で完結する大きな施設ではなく、機能を小さく分けて街に開き、多面的なつながりを生む「割り算の再開発」をコンセプトとしました。

## 2 木材を活用したまちなみづくりを目指した背景や、設計上の工夫は？

大きな建物を一棟でつくるのではなく、木造平屋を3棟に分け、軒や路地のような外部空間をつくることで、人の身体感覚に近いまちなみを目指しました。A棟は減築された既存建物の骨太な構造体を木造で読み替え柱スパン、柱の太さなどを踏襲しています。B・C棟は日本の伝統的な木造建築を参照しつつ、名古屋の商業建築に多く見られる歩道に飛び出たテント屋根の形式も取り入れたハイブリッドな屋根でまちなみを作っています。構造材には愛知県産材を用い、かつて貯木場があった熱田の歴史も手掛かりにしながら、木の架構そのものが街の表情になるよう設計しました。

## 3 来訪者や地域からの反響は？木質空間がエリアの魅力向上にどのような効果を発揮？

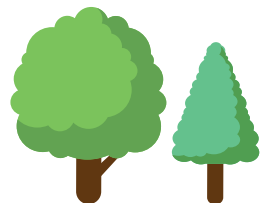
開業後は、観光客だけでなく地域の方々も日常的に立ち寄り、食事や買い物、イベントを楽しむ姿が見られるようになりました。設計者として特に印象的なのは、店舗の中だけでなく、木造の軒下や通り抜け空間に人が自然と滞在していることです。木の柱梁が見えることで建物のスケールが身体に近くなり、商業施設でありながら街路や縁側のような親しみが生まれています。木質空間が滞在のきっかけとなり、熱田らしい風景とエリアの回遊性をつくる一因になっていると感じます。

## 4 100年つづく木の街づくりに向けて、本施設が果たす役割や今後の展望は？

100年つづく木の街を考えると、重要なのは木造建築を一つつくることだけではなく、木を使うことが地域の日常や経済、文化の中で継続していく仕組みをつくることだと考えています。「あつた nagAya」は、駅前という多くの人が触れる場所で、木を特別な素材ではなく身近な街の風景として示す実践でもあります。今後も周辺整備や連続する商店街へ、建築単体ではなくエリア全体へ木の使い方や価値が波及し、次の更新へ受け継がれる場所になることを期待しています。



写真提供：Tololo studio





## 無印良品 イオンモール橿原 OpenMUJI

(奈良県 橿原市)

株式会社良品計画 営業本部 I A 統括部  
法人営業担当 東京事業所 宮下 潤也

デザイナー

### ① 施設の概要や開発コンセプトは？

コンセプトは、「日常の買い物の場にある、地域に開かれた広場」です。こどもたちをはじめ、家族連れや地域の方々が集い、それぞれ思い思いの時間を過ごせるよう、多様な「居場所」をつくりました。

無印良品の店舗の中で世界最大の売場面積をもつ「無印良品 イオンモール橿原」の中央に設けた広場には、地域の資源である吉野杉や吉野櫨をふんだんに活用しています。床材や柱の化粧材、家具、什器に加え、玩具や楽器にも地域産材を使用しており、訪れた人々は遊びや交流を通じて、木に包まれた心地よい空間を体験することが出来ます。

### ② 吉野材を活用した背景や、木材利用によってどのような空間を実現したかった？

私たちは、「店舗が地域のコミュニティセンターとしての役割を担い、地域課題の解決に取り組む」というミッションのもと、住民の皆さまが地域への愛着や誇りを育めるよう、チェーン店らしい画一的な空間ではなく、その土地ならではの魅力を感じられる場づくりを大切にしています。吉野材の産地として知られる吉野町や、歴史的な町並みが残る今井町など、この地域には豊かな森林資源や文化的資源があります。私たちは、こうした地域ならではの価値を身近に感じられるような空間を目指し、デザインを練り上げました。

### ③ 利用者からの反響は？

日常生活の中で木に触れる機会として、どのような役割が？

利用者の方からは、「木に包まれているようで心地よい」「吉野杉の実物を初めて見て、地元を知るきっかけになった」といった声をいただいています。

また、この場所で夢中になって遊ぶ子どもたちは、木でできた空間の中で、木の玩具や楽器に自然と触れています。こうした体験が、無意識のうちに木材への親しみや木の文化への理解を深める機会になっています。日常の買い物の場に、誰もが自由に立ち寄れる木の施設があることで、地域資源である木材に目を向け、その価値を知るきっかけを提供する場にもなると考えています。

### ④ 100年つづく木の街づくりに向けて、商業施設や企業が果たせる役割とは？

2023年、良品計画と MUJI HOUSE は、日本の山林が抱える課題への対応として、農林水産省と協定を締結し、5年間で合計1万㎡の国産木材を利用することを目標に掲げました。私たちは、国産材の利用を拡大することで森林資源の循環を促し、持続可能な社会の実現に貢献する責任があると考えています。消費者に身近な存在である小売業者として、今後も木造店舗や内装材、什器に積極的に国産材を活用し、木材をより身近で親しみやすいものとして感じていただける、感性に響く空間づくりを

進めてまいります。



写真提供：株式会社良品計画



## 楽天グループ株式会社

楽天グループ株式会社

ヴァイスマネージャー 堂前勇人

アシスタントマネージャー 松並宏直

水上綾乃

久米優佳

### ①「ウッド・チェンジ」特設ページ及び「木と過ごす旅へ」ページを開設した背景は？

楽天市場には国産木材を活用した魅力的な商品が豊富に揃っています。日常的に木製品を購入されている方やこれから選ぶ方に「ウッド・チェンジ※」の考え方やメリットを伝え、行動を変えるきっかけを作りたいと考えたことが背景にあります。さらに「買う」アクションだけでなく、全国の豊かな森林や木を活かした魅力的なスポットへ実際に足を運び、木に触れ、過ごす接点を創出したいという想いから、楽天市場と楽天トラベルにて本ページを開設しました。

### ②これまでの運営を通じて、利用者からはどのような反響が？

毎年弊社で独自に行っているアンケート調査では、2025年度も非常にポジティブな反響をいただいています。身の回りのものを木に変える「ウッド・チェンジ」の意義についても理解が進んでおり、特設サイトの閲覧後は「日本の森林を守りたい」という意識の変容が見られました。さらに、エシカルな意識としても「国産木材の利用が適切な森林管理につながる」といった活動の社会的価値への共感が全体的に高まる傾向にあります。

### ③特設ページでの木材利用施設の情報発信は、都市生活者と森林・木材利用をどのようにつなぐことができると考える？

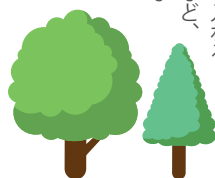
木材利用施設の情報発信は、都市生活者にとって普段意識しにくい森を、木造の宿や文化施設など旅行先という身近な選択肢として提示する役割を果たすと考えています。施設を知ることと実際にその場所を訪れ、木の香りや手触りに触れた体験は、その後の商品選びや、暮らしの中での木材利用への関心にもつながっていきます。木材利用施設の情報発信は、「知る」を「訪れる」に、「訪れる」を「使う」へとつなげる橋渡しになっていくと考えています。



### ④「百年つづく森の国・木の街へ」の実現に向け、今後どのような発信や取組を進めていきたい？

楽天では、国産木材を使った商品との出会いや、森林や木のスポットを訪れて木に触れる体験との出会いを創出できるよう、発信を続けていきたいと考えています。「百年つづく森の国・木の街」を実現するためには、一人ひとりの考え方やちょっとした行動の変化の積み重ねが欠かせません。「木に触れる」「木と過ごす」という接点を広げる取組を続けることで、木をより身近に感じ、好きになってもらえるきっかけをつくっていききたいと考えています。

※ ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。



### ● おわりに ●

建築物に木材を利用することは、快適な「街」づくりを進めるだけでなく、森林の適切な整備や脱炭素社会の実現にも貢献します。私たちが「木の街」を訪れ、その心地よさや魅力に触れることは、「木の街」の広がりを支え、健全な森林を育むことや温暖化対策にもつながります。